



## 〔解説〕

〔問題1〕——線部①のある段落と同じ段落の最後に「この発想はつきつめていくと、自分の土地の石や生えている野生植物はどうしようと自分の勝手ということになります」とあります。筆者がその後の段落で「里山のような自然の保護」を訴えており、「自然を人間の所有物」とする考え方は自然破壊につながって問題だと考えているわけです。この問題では「自然をどうしようと自分の勝手だ」という考え方が、「自然保護」の観点から問題だとしているところをとらえる必要があります。

〔問題2〕 本文の中で筆者が示している自然観に注目します。淡水生物研究所の森下所長の考え方を引き合いに出しながら「人間の美意識を自然界に持ち込んで、生物を分別しているにすぎない」(P4下段)「人間の美意識を自然界に持ち込むのは危険だと指摘している」(P5下段)と述べています。この考え方に基づいて「人間の美意識か、それとも生物本位の環境か」と選択肢を提示していますが、森下所長の発言に対する態度から考えて筆者が「生物本位の環境」を保護すべきだとしていることをとらえましょう。

〔問題3〕 「自然を大切にする」ためにはどのようなことが必要かという問いですから、このことに対する考え方を明確にしましょう。しかし、この設問には文章1・文章2の内容をふまえて、とありますから、それぞれの文章がどのような内容であったかを示す必要もありません。文章1・文章2で述べている内容を示した上で自分の考えを示すと読みやすい形で作文できます。文章1も文章2も人間中心の自然観を問題ととらえ、「自然の側に立ったものの見方・考え方をすべきだ」と述べています。このことを前提として、自然の側に立って考えた場合、どのような行動をとることが必要かを示す必要があります。また、自分の意見をまとめた後は、そのように考えたきっかけとなった体験や見聞を示して、説得力をもたせるとよいでしょう。